

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	基礎製図B	
科目基礎情報							
科目番号	0078			科目区分	専門 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産デザイン工学科（機械創造システムコース）			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	初心者のための機械製図 第5版、藤本元 御牧拓郎 他、森北出版株式会社						
担当教員	山本 洋司,吉武 靖生						
到達目標							
・製図の規格を理解できる。 ・図形を正しく書くことができ、寸法を記入することができる。 ・断面図、ねじの製図ができ、公差の記入ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	簡単な部品図の製図ができる。			図面例を見ながら、製図ができる。		図面例を見ても、製図ができない。	
評価項目2	寸法記入のルールを理解し、適切な寸法補助記号を用いて寸法記入ができる。			寸法補助記号を用いて寸法記入ができる。		寸法記入の各種ルールを理解しておらず、適切な寸法記入ができない。	
評価項目3	断面図や公差を理解し、製図・計算をし、図面に記入できる。			断面図や公差を記入できる。		断面図や公差を理解しておらず製図・計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B① 専門分野における工学の基礎を理解できる。 学習・教育到達度目標 B② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。							
教育方法等							
概要	日本産業規格(JIS)に定める「機械製図」の規格を理解・把握し、誤りなく図面を読み、作図を行うための知識と技術を習得する。						
授業の進め方・方法	JIS規格に基づいた製図の各規則、および基本となる約束事項の習得を目指す。各項目の説明の後、演習を主体とした授業を行う。 受講にあたって基礎製図Aの内容をよく復習しておくこと。						
注意点	履修上、最低限の製図用具は必要となる。 演習、課題を必ず期限内にすべて提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	・ガイダンス ・基礎製図Aの復習		・製図の重要性を今一度理解する。 ・三角法や線種について理解し、三面図が描ける。		
		2週	・寸法記入の基礎		・寸法記入方法を理解し、簡単な図面が描ける。		
		3週	・直径、半径、面取りの寸法記入		・直径、半径、面取りの寸法記号を使いこなせ、これらを含んだ図面が描ける。		
		4週	・穴、テーパ、こう配の寸法記入		・穴の寸法記入方法を理解し、穴を含んだ図面がかける。 ・テーパ、こう配を理解し、計算および寸法記入ができる。		
		5週	・長穴、ざぐりの製図		・長穴の寸法記入方法を理解し、長穴を含んだ図面がかける。 ・ざぐり、皿ざぐりについて説明できる。 ・ざぐりの製図ができる。		
		6週	・断面図		・各種断面図や製図方法について説明できる。		
		7週	・1～6週までの復習		・1～6週までの内容を理解し、製図できるようになる。		
		8週	・中間試験		・1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	2ndQ	9週	・試験内容についての解説 ・断面図		・中間試験の内容を理解する。 ・各種断面図が描ける。		
		10週	・ねじの製図		・ねじについて説明できる。 ・ねじ記号が判別できる。		
		11週	・ねじの製図		・ねじの製図ができる。		
		12週	・サイズ公差		・サイズ公差について説明ができる。 ・サイズ公差に関する計算ができる。		
		13週	・サイズ公差		・サイズ公差を含んだ製図ができる。		
		14週	・組立図		・組立図の役割と製図方法について理解する。		
		15週	・9～14週までの復習		・9～14週までの内容を理解し、製図できるようになる。		
		16週	・定期試験内容についての解説		・定期試験の内容を理解する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	製図	図面の役割と種類を適用できる。	3	前1,前2
				製図用具を正しく使うことができる。	3	前1,前2
				線の種類と用途を説明できる。	3	前1,前2
				物体の投影図を正確にかくことができる。	3	前1,前2
				製作図の書き方を理解し、製作図を作成することができる。	3	前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11
				公差と表面性状の意味を理解し、図示することができる。	3	前12,前13

評価割合

	試験	課題					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	40	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0